

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104059		
法人名	株式会社 セービング		
事業所名	グループホーム 椋野		
所在地	山口県下関市椋野町3丁目22番43号		
自己評価作成日	平成28年5月28日	評価結果市町受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年6月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム 椋野の理念である、「むりせず、くらくをともし、のんびりと」をモットーに、理念に沿った支援を目指しています。入居者の方と一緒に買い物に行き、一緒に食材を選び、食事の用意をしています。掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理、配膳、後片付けなど、入居者一人ひとりに合わせて、家で過ごしていた時と同じように、役割を持って生活できるよう支援しています。

毎月ご家族に、広報誌「椋野だより」を送り、日々の生活の様子をお伝えしています。家族会も年に数回開き、ご家族、入居者、職員のつながりが深まるよう支援しています。

また、月に一度、外食やお弁当を作ったの外出をし、楽しく過ごしていただいています。地域の行事、清掃活動にも参加し、地域の中でその人らしい生活が出来るよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員が地域の夏祭りやしめ縄づくりなどの行事に参加されたり、近所の人が気軽に事業所に来訪されて利用者と交流しておられる他、地域の「徘徊模擬訓練」で認知症の人への言葉かけや対応訓練の協力をされているなど、事業所と地域との付き合いを深められて、地域の一員として日常的に交流されています。利用者の好みを聞かれて献立を立てられ、三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者と職員は、買物、調理、盛り付け、配膳、食事、後片付けなどを一緒にされ、同じ食卓を囲んで会話をしながら食べておられ、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。代表者が出席される月1回の職員会議や申し送り時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けておられる他、管理者は、毎月の職員会議の前に職員にアンケートを実施され、職員が意見を言いやすい工夫をして職員からの意見や提案を聞いておられ、誤薬防止の為に3人チェック体制や食事の味つけ、報告、相談、連絡の徹底など、職員の意見や提案を運営に反映させて、サービスの質の向上に活かしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をスタッフ間で共有するため、申し送り時に理念を唱和し、実践できるように努めている。また、職員会議の中で理念の意義の研修を行ない、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。毎朝の申し送り時に唱和している他、内部研修で理念について話し合い、確認して共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回してもらい、地域の一員として、行事や清掃に参加している。 近所のお年寄りが気楽に遊びに来られ、交流している。	自治会に加入し、回覧版で地域行事の把握をしている。職員は自治会行事の清掃作業にしている他、利用者は事業所周辺の草取りに参加している。地域の夏祭りや公民館でのしめ縄づくり、大学での焼芋会に利用者は職員と一緒に外かけて交流している。地域にある教会の3回の行事(収穫祭やクリスマス、花の日)には駐車場を提供し、参加している子ども達の来訪がある。ボランティア(楽器演奏、フラダンス、ヴァイオリン、歌、アコーディオン、習字教室)の来訪時には近所の人にも案内をして参加を呼びかけて、交流して楽しんでいる。中学2年生の職場体験学習を受け入れている。地域の社会福祉協議会主催の「徘徊模擬訓練」(年4回開催)で認知症の人への言葉かけや対応訓練に協力している。散歩時や回覧版を回す時、ポストに郵便物を投函時、買物時に地域の人と挨拶を交わしている他、事業所に気軽に近所の人々が来訪しているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治体を通じて、認知症で困っている方の相談にのったり、運営推進会議で自治体の方に、認知症の方の理解や支援の方法を話している。 地域の俳諧模擬訓練にも協力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は自己評価、外部評価の意義を説明し、皆で自己評価をすることによって、日々のケアを振り返っている。また、客観的に評価していただくことによって、質の向上を目指している。	管理者は、職員に評価の意義を説明し、自己評価をするための書類を職員に配布して項目を分担して記入してもらい、まとめている。自己評価を通して職員は日々のケアを振り返る機会と捉え、職員間での話し合いの大切さに気づいている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、事故防止のため応急手当の講習の取り組みや、運営推進会議へ家族の参加があるなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議での話し合いや意見は職員会議で話し合い、さらなるサービスの向上に活かしている。	家族の参加を得て、会議は年6回開催している。入居者の状況報告、行事報告、職員の研修報告、事故・ヒヤリハット報告、外部評価報告等をして、話し合っている。参加者から、地域行事の紹介や徘徊模擬訓練への協力依頼、地域での災害時の避難経路についての意見があり、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員が参加され、評価助言をいただいている。	市担当者とは、年1回の運営推進会議参加時の他、電話や直接出向いて、情報交換や疑義について相談をして助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議参加時やグループホーム研修会、オレンジカフェ参加時に情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアの研修をし、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを基に、内部研修を行い、職員は、身体拘束の内容や弊害について理解している。外出したい利用者があれば一緒に出かけるなど、拘束や閉塞感のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、管理者が指導をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員、高齢者虐待防止関連法について研修をおこなっており、施設内で虐待が行われることがないように防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護についての研修を受けており、最善の支援が出来るように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明を行い、ご家族の不安、疑問の解消に努めている。 また、改定時も十分な説明を行い、理解を得るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情の受付体制や手続きを説明している。また玄関にご意見箱を設置し受け付けやすくしている。意見、要望は職員会議や運営推進会議で報告し運営に反映させている。	苦情や相談の受付体制、処理手続きについて、契約時に本人と家族に説明をしている。面会時や年3回ある家族会参加時、運営推進会議時、誕生日会時、個別ケア相談時、電話等で家族からの意見や要望を直接聞いている。意見箱を設置している。家族には1ヶ月に1回、事業所便りと管理者の手紙を添えて送付し、意見が言いやすいように工夫している。個別ケアに関する相談や要望には即対応するとともに、口腔ケアや整容等についての意見を運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティング、申し送り時に職員からの意見、提案を聞くようにしている。また、職員のアンケートも実施している。職員会議に参加できない職員については、事前に意見を聞き、ミーティング時に意見を反映できるようにしている。	代表者が出席する毎月の職員会議や申し送り時に職員の意見や提案を聞いている他、管理者は毎月、職員会議の前にアンケートを行い、意見や提案が言いやすいように工夫をしている。法人では56項目によるストレス調査の実施に合わせて意見や提案を記入してもらう白紙を配布するなど、ケアに関することから、勤務環境まで幅広く職員の意見や提案を聞く機会を設けている。誤薬防止のための3人チェック体制や食事の味付けを薄味とする取組み、報告、連絡、相談の徹底など、職員からの意見や提案を運営に反映している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に事業所を訪問し、職員の思い、意見を聴いている。 また、職員の勤務状況を把握し、やりがいのある職場環境の整備に努めている。 資格取得後の報酬を考慮し職員が向上心をもって働けるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議後、毎回施設内研修を行っている。施設内研修は年間計画を決め、すべての職員が研修を受けられるようにしている。 外部研修は職員に情報を伝え、参加希望の職員には、勤務の配慮をしている。	外部研修は、職委員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は職員会議で伝達し、資料はいつでも閲覧できるようにして全職員が共有している。法人研修は、歯科医師による「口腔ケア」を実施している。内部研修は、年間計画を立て毎月実施(接遇、応急手当、食中毒、熱中症、認知症、身体拘束、権利擁護等)している。新人研修は管理者が指導者となって日々の業務の中で介護の知識や技術を学べるように支援している。職員は、山口県宅老所・グループホーム協会の研修会や交流会に参加している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ入会し、研修会、交流会に参加して、情報交換をしている。 また、施設訪問を行い、お互いスキルアップしサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族との話しを踏まえた上で本人を取り巻く環境を理解し、本人の話に耳を傾け安心できる環境を整え、穏やかに生活できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族の抱えている不安なこと要望などしっかり話し合い、信頼関係を築いていくように努め、相談しやすい雰囲気作りに配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを受け入れ、必要なサービスを総合的な見地から見つめご本人にあった最善の支援ができるように支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご本人の出来ることを見極めながら、調理や掃除などに参加していただいている。調理は味付けをみていただくなどし、ご本人の意見に耳を傾けながら、ともに過ごす時間を大切に、自分らしい生活ができるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に何回か行われる家族会でご家族とともに過ごせる時間を設けており、ご家族の思いご意見に耳を傾けながら、ともに過ごす時間を大切に、自分らしい生活が出来るよう支援してる。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問の際には居室でゆっくりと過ごしていただけるよう環境作りをしている。一緒に写真を撮り、思い出として残している。また、年賀状やはがきを書くお手伝いをし、友人、知人との関係が続くよう支援している。	家族の面会、親戚の人や近所の人、趣味仲間等の来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。馴染みのスーパーマーケットやコンビニエンスストアでの買物、馴染みの美容院に出かけている他、馴染みの人の来訪時には利用者との写真撮影をして思い出づくりをするとともに再来を約束するように工夫をしている。家族の協力を得て一時帰宅や外食、買物、法事への参加や墓参など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の利用者の心身の状態を見ながら、お互いに思いやりを持って接することができるよう見守っている。、座席の配慮をし仲間作りを支援している。トラブルの際はさりげなく間に入り、良好な関係が持てるよう、気を配っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時は、ご家族にご本人が書かれた習字や絵の作品集、思い出のアルバムをお渡ししている。サービス終了後もいつでもご家族からの相談をうけ、これまでの関係を大切にしながら支援している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思が尊重できるように一人ひとり寄り添いながら、日常の行動や言動から思いを把握し、その心に応えられるよう心掛けています。 基本情報シートや24時間シートを活用し、本人の思いを把握している。	入居時の「基本情報シート」(本人のこれまでの暮らし方や出来事、思い、希望等)を活用している他、利用者一人ひとりに寄り添って、一日の過ごし方の具体的な状況や変化を「24時間シート」に記録して、利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート、ご家族の方からの情報、本人との会話を通してこれまでの暮らしの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	思い込みにとらわれず、積極的に本人と関わりを持つことによって、心身状態の把握、できることの把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に本人、家族、医師の考えを参考にし、日常の言動や行動をもとに課題とケアのあり方について皆で話し合って介護計画を作成している。	月1回ケアカンファレンスを開催し、本人や家族の思い、医師、看護師の意見を参考にし、24時間生活変化記録を基に職員全員で話し合い、介護計画を作成している。毎日、モニタリングを実施し、1ヶ月毎にまとめ、3ヶ月、6ヶ月毎の見直しをしている他、利用者の状態や要望に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。家族の面会時には、前回の介護計画を見せて、今後の希望や要望を聞いている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の体調や思いなどを24時間シートに記入して、職員間で情報を共有しながら意見交換を行い日々の対応、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の身体状況等の変化に応じて、専門家の方の意見を参考にし、ご家族とも連絡を密に行い柔軟に支援内容を見直すよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院、近くのスーパーなど、地域の方々と関わり、協力を得られる事により、安全で豊かな社会生活ができるように支援し、努力している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明をし、納得を得て、かかりつけ医と家族の関係を築いている。 医師からの情報、家族からの情報を的確に伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の希望する医療機関の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は月2回の訪問診療と夜間、休日、緊急時の対応をしている。他科受診は家族の協力を得て支援をしている。受診結果は家族に電話で報告をして、共有している。看護師による健康管理を実施し、早期発見や往診、受診へ結びつけるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表をもとに。日々の生活へのアドバイスをいただいている。24時間シートに情報、気づきを書き込み、看護師との連携をとっている。 また、必要とあれば、受診するよう助言をもらっている。24時間のオンラインで緊急時の対応を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と情報交換を行い、ご本人が安心して治療できるように努めている。 家族と共にご本人、病院関係者と面談し、早期に退院できるように、努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合、終末期のあり方について、事業所の方針を説明している。本人、ご家族、の希望を大切にし医師と連携をとりながら、自分らしく、無理なくすごしていただけるように支援している。	契約時に重度化した場合の事業所の方針を家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族、医師、訪問看護師等関係者と話し合い、医療機関への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ひやりハット事例が起きた場合は報告書に記録し、職員会議で再発防止策について検討する。全職員で共通理解を行い介護計画に活かすようにしている。 緊急時に備えて、応急処置の訓練、研修を実施している。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書や事故報告書に発生状況や対応策、改善すべき点を記録して全員に回覧し、職員会議で再度、話し合いひとり一人の事故防止に努めている。全職員は消防署の協力を得て救急救命法、AEDの使い方の講習を受講し、内部研修で看護師による応急手当（過呼吸、誤嚥、骨折、ケガ、出血）の訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定火災避難訓練を実施しており、消火器の使い方、通報、救急法の訓練を行っている。消防士より訓練時の注意点、アドバイスをいただき、全員で共有している。災害時の連絡体制を地域の方々と相談して、つくっている。	消防署の協力を得て年2回、夜間の火災を想定した避難、通報、消火器の使い方の訓練や避難経路の確認をしている。訓練には、利用者や運営推進会議参加者、地域の人に参加している。災害に備えての「地域連絡体制」を整え、緊急連絡網には運営推進会議のメンバーの登録がある他、自動通報システムにより自治会長から各家庭に連絡できるなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人を尊敬する言葉かけを行うよう、対応している。トイレ誘導時も、言葉かけに気を付け、誇りやプライバシーを損なわないよう対応している。	職員は内部研修で学び、日々のケアの中で管理者は「利用者に対して尊敬の気持ちと親しみを持って接する」ように指導しており、職員は利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の保管や守秘義務については職員だけでなく実習生にも指導を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが強制するのではなく、自分の思いを表し自分で決められるよう、適切な言葉かけをするように、心がけている。 また、言葉で表現が難しい方は、表情や態度を見逃さないよう、気を配っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や時間を優先させず、入居者の気持ちを優先し、一人ひとりのペースに沿った支援をしている。朝もいっせいに起こすのではなく、本人に合わせた起床時間になっている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを考え、おしゃれが楽しめるよう支援している。毎月、訪問理美容があり、自分で希望されて、カットやヘアカラーをされている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と買い物に行き、旬の食材、食べたい物を一緒に選んでいる。また、食事は一人ひとりに合った量や食べやすい工夫をするなど、配慮している。職員と一緒に食事作り、配膳を行い、一緒に食事をしている。季節の献立、誕生会のケーキ、外食など、食事に楽しみを持っていただけるよう支援している。	利用者の好みを聞いて献立を立て、ひとり一人に合った量や形態の工夫をして三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は職員と一緒に買い物に行き、野菜の下ごしらえ、野菜を刻む、炒める、味見、盛り付け、お茶汲み、トレイを拭く、配膳、下膳、食器洗い、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、食材を話題に話を弾ませながら同じ物を食べている。おやつづくり(ホットケーキ、お団子、ゼリー)や弁当を持って戸外での食事、月1回の外食、誕生日会のケーキ、季節の行事食(おせち、節句時の寿司、夏のソーメン)など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調に合わせ、食事の量、形態、栄養などバランスを考慮しながら、摂取していただいている。食事摂取量、水分摂取量など、記録に残している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の出来る力に応じて、口腔ケアの声掛け、援助を行っている。 定期的に義歯の洗浄、歯ブラシ、コップの漂白を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけをしてトイレ誘導を行っている。紙パンツの方もトイレで排泄出来るよう支援している。また、日中は布の下着で過ごせるよう、声掛けをしたり、下着にパッドのみ装着するなど、気持ちよく過ごせるように支援している。	24時間生活変化シートを活用して排泄パターンを把握し、ひとり一人に合った言葉かけや対応を工夫して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品、適量の油脂など食事の摂取に気配りしている。また、散歩、体操など、適度な運動をすることによって、便秘予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	通常は午後から入浴を行っているが、本人の状態状況に応じて、午前も入浴出来るよう対応している。強制することなく、ご本人がリラックスして、楽しく入浴出来るよう支援している。アロマの香りやマッサージなども提供している。	入浴は毎日可能で、14時から16時までとなっているが、利用者の希望や体調に合わせて、午前中に入浴することもできる。順番や湯加減、シャンプーなど、本人の希望に合わせて、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いないで入浴日を代えたり、入浴用品(シャワーハットなど)の利用や言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴、部分浴など個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのタイミングや習慣を大切に、状況に見合った休息や安眠が出来るように細やかな支援に努めている。また、居室の室温、乾燥にも注意している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服薬している薬について名前、用法、用量について理解している。服薬の際、スタッフ同士確認し合い、声かけをして服薬しやすい状態を取って、支援をしている。また、服薬後の状態の確認をするようにし、誤薬のないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと、興味のあることを見つけて出来ることの喜びを感じられるような、生活に密着した支援やレクリエーションなどに取り組んでいる。	新聞紙でゴミ箱づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物をしまう、シーツ交換、布団干し、買物、食事の準備、調理、配膳、後片付け、居室をモップで掃除、花を生ける、花の水やり、鉢の水やり、新聞をとる、カーテンを開ける、カレンダーの日めくり、ラジオ体操、リハビリ体操、散歩、習字教室、脳トレ(計算、漢字)、パズル、言葉合わせ、歌を歌う、演奏(カスタネット、鈴)をする、100円ショップに出かける、新聞や雑誌、本を読む、写経、日記をつける、テレビを見る、かるた、トランプ、折り紙、ちぎり絵、切り絵、季節の壁面飾りをつくる、カラオケ、オカリナコンサート、季節行事(初詣、節分、花見、ソーメン流し、敬老会、クリスマス、焼芋会、しめ縄づくり)、誕生日、ボランティアによるフラダンス、マンドリン演奏、ギター演奏など、利用者の喜びや張り合いとなる楽しみごとや活躍できる場面をつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物、散歩など一人ひとりの体調や希望を考慮し戸外に出られるように外温、天候などに注意しながら外出を支援している。 また月1度の外出支援では、体全体で感じられるような、気分転換に繋がる支援に取り組んでいる。 ご家族と一緒に外出出来るように支援している。	周辺や棕野公園の散歩、ウッドデッキでの日光浴、スーパーマーケットやコンビニエンスストアでの買物、花見(桜、つつじ、バラ、紅葉)を兼ねてドライブ(園芸センター、毛利邸)、海峡ビューでオカリナコンサート、月1回の外食、しめ縄づくり、初詣、大学の焼芋会に出かけている他、家族の協力を得て外食、買物、墓参、法事への参加など、本人の希望にそって外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、少額のお金を本人の財布に入れられている方もおり、電話代、おやつ代など、に使えるように、支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、ご家族や友人に電話を掛けることができるように支援しており、電話で話すことによって安心されている。 また、年賀はがきや暑中見舞い、友人への手紙を出せるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快感のないよう配慮し落ち着いた静かな環境作りを心掛けている。壁面には季節に応じた装飾を入居者と一緒に作っている。 また、心地よい状態を保てるように音楽をかけたり、空気清浄機を設置し、感染防止、消臭に努めている。ベランダに季節の花、野菜を植え、楽しんでいる	整理整頓してある食堂兼リビングは広く、季節の花を飾り、落ち着いた明るさである。ベランダにはネギやミニトマトが植えてあり、利用者は水やりを楽しみにしている。室内には畳コーナーや机や椅子、ソファがゆったりと配置してあり、廊下に椅子、ソファなどを配置して、利用者が思い思いの場所でくつろげるようになっている。壁面には利用者合同作品である季節の壁画を飾り、音楽が静かに流れている。清潔に留意し、温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の椅子や玄関の椅子でもくつろげるようにしている。一人の時間を大切に、また、気の合った方や職員とのかかわりが持てるようにしてる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化を最小限にできるように、本人の使い慣れたものをもってきていただいている。また、家族の写真や絵、書道を飾っている。 シーツ、枕カバーの交換、布団干しなどこまめに行っている。	ベッド、箆笥、椅子、テレビ、仏壇、衣装箱、時計、縫いぐるみなど、使い慣れた物や好みものを持ち込み、家族写真やカレンダー、自作品、習字、花を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など、なじみの言葉でわかりやすく表示されており、自分で行けるようにしている。また、対面式のキッチンが中央にあるので、入居者の安全、動きを把握しながら、調理や配膳など、それぞれ出来ることをしていただいている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 棕野

作成日： 平成 28年 12月 25日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	研修で応急処置法や、初期対応の訓練を実施しているが、全職員が入居者の急変時の対応ができるまでに至っていない。	全職員が実践力を身につけ、緊急時の初期対応や、応急手当ができるようになる。	申し送りや、ミーティングなどで、一人一人の状況を全職員が把握し、リスク対応ができるようにする。 救命救急の講習に全員が参加する。	12ヶ月
2	36	年2回夜間想定避難訓練を行っているが、地震や水害などの災害時の訓練避難経路の確認がはっきりしていない。	全職員が災害時の通報、避難経路の確認がとれる。	年2回の夜間想定避難訓練に全職員が参加できるようにする。 地震、水害時の避難訓練を地域の人と行う。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。